

江別市かわまちづくり

計画書（案）

令和4年3月

江別市

市町村及び河川の概要

1. 市町村等の概要	
①都道府県名	北海道
②市区町村名	江別市
③人口	119,718人（令和3年11月末現在）
④面積	187.38km ²
⑤市の特色	<p>江別市は、石狩平野の中央に位置し、一般的に平坦な地形で豊かな自然環境に恵まれ、札幌市、北広島市、岩見沢市、当別町、南幌町、新篠津村と隣接しており、道央圏で札幌市に次ぐ規模の都市となっています。</p> <p>昭和40年代より宅地造成が進んだ江別市は、5つのJR駅を中心に市街地が形成されており、交通アクセスの良さなどが評価され、札幌市への通勤・通学圏内で最も人口が増加しました。近年は、商業施設や飲食店の進出が目立ち、自然と都市機能が調和したまちとして発展を続けています。</p> <p>江別の語源は、アイヌ語の「ユベオツ」（サメのいる川）または「イブツ」（大事な場所への入口）とされ、明治11年の屯田兵の入植以降、千歳川に面した江別港と月形町を往来する外輪船により石狩川の舟運の中心として栄え、当時の隆盛を物語る外輪船（旧岡田倉庫）等の歴史的建造物が多く残っています。また、江別市はレンガの一大産地となっており、「江別のれんが」が平成16年10月に北海道遺産として認定されています。</p> <p>江別市にまたがり広大な面積を持つ野幌森林公園は、昭和43年に北海道百年を記念して道立自然公園に指定されました。公園の大部分を国有林が占め、昭和の森自然休養林や鳥獣保護区に指定されています。公園内には、総延長40kmほどの自然遊歩道、休憩施設、5つの池等があり、市民に親しまれています。</p> <p>江別市内には官民の大規模研究施設が立地し、4大学・1短大があります。近年、研究施設や大学が市内生産者・製造業と連携し地域ブランド創りへの挑戦も盛んになっています。また、研究施設・大学とも市民向けのイベント・セミナーなどを開催するなど、地域に開かれた取組みも積極的です。</p> <p>江別市の産業は第三次産業が中心ですが、農業は大消費地の札幌市に隣接していることもあり、稲作、畑作、酪農等多岐にわたっています。初冬まき栽培で有名な幻の小麦「ハルユタカ」、首都圏で有名な乳製品の自家生産企業、ハム・ソーセージの製造企業等のほか、シーズンには多くの野菜直売所がオープンします。</p>
	 
	外輪船（旧岡田倉庫）
2. 市内の河川の概要	
①主な河川	<ul style="list-style-type: none"> ・石狩川（一級河川石狩川水系、流域面積14,330km²、流路延長268km） ・千歳川（一級河川石狩川水系、流域面積1,244km²、流路延長108km） ・夕張川（一級河川石狩川水系、流域面積1,417km²、流路延長136km） ・豊平川（一級河川石狩川水系、流域面積902km²、流路延長72.5km） <p>石狩川は、江別市の北部に面し、大雪山系石狩岳の西斜面に源を発して上川盆地、石狩平野を経て432の支川を合わせ日本海に注ぐ一級河川です。</p> <p>千歳川は、我が国を代表するカルデラ湖で国内有数の透明度を誇る支笏湖を源とする、石狩川流域の主要な一次支川です。支笏湖周辺は豊かな自然環境によって支笏洞爺国立公園を構成しています。千歳川は全国有数のサケ遡上河川であり、秋には多くの観光客が訪れます。市街地にある河川管理用道路をはじめとする河川空間は、市民によるイベント空間や散策路等としても利用されています。</p> <p>また、夕張川は江別市の東部、豊平川は江別市の西部に面する、石狩川流域の主要な一次支川です。</p>

②河川と江別市や民間事業者との関わり

石狩川・千歳川合流点の江別河川防災ステーションで開催される「こいのぼりフェスティバル」や NPO 主体で開催された「ミズベのロングマーケット」等、河川管理者・自治体・事業者が連携した多くのイベントが開催されており、千歳川は周辺地域の社会・文化と深い結びつきを持っています。

また、生活の基礎や歴史、文化や風土を形成してきた千歳川の恵みを活かしつつ、自然とのふれあい、釣り等の趣味、イベント等の河川利用、環境学習の場等として安全に活用できるよう、地域の活性化に寄与する場の整備に努めています。

■石狩川河川敷緑地（昭和 51 年）

ソフトボール場 2 面、サッカー場 2 面、駐車場 2 箇所が整備された石狩川河川敷の公園緑地であり、地域のスポーツの場として多くの人に利用されています。

市民体育大会、小中学生等の野球大会、江別市内の保育園の運動会等の各種イベントが開催されています。



石狩川河川敷緑地

③これまで実施済みの関連施策

■江別河川防災ステーション（平成 14 年完成）

水防資器材の備蓄、水防活動の拠点基地や災害時の避難場所として活用するための施設として、千歳川合流点付近に計画・整備されました。

平常時における防災研修の場や河川情報の提供、川を題材とした歴史、川の恩恵などの展示をはじめ、防災意識の向上に努めるほか、市民の憩いの場として親しまれる空間づくりを展開しています。



河川防災ステーション

■アートスペース外輪船（平成 17 年 7 月オープン）

歴史的建造物である外輪船（旧岡田倉庫）を、江別の芸術・文化の発信基地となるイベントスペースとしてリニューアルしました。

「旧岡田倉庫活用民間運営協議会」が江別市から借り受けて管理・運営を行っており、演劇・コンサート・講演会等の各種イベントに利用されています。



アートスペース外輪船

④市民や民間事業者による河川利活用状況

江別市は、度々石狩川や千歳川の洪水氾濫に見舞われてきた地域ですが、河川整備が進められており、多くの市民が憩いや自然とのふれあい、イベントの場として広く河川空間を利活用しています。

- ・千歳川沿いの河川管理用道路で、散策を楽しむ光景が見られます。
- ・春には「こいのぼりフェスティバル」、夏には「えべつ花火」「石狩川リバーセービング」など、多くのイベントが開催されており、過去に NPO 主体で開催された「ミズベのロングマーケット」では、千歳川沿いで多くの市民がコンサート・雑貨販売等を楽しんでいます。
- ・江別河川防災ステーションでは、江別の観光の紹介及び物産の販売を行っており、平成 14 年度～令和 2 年度の平均で年間約 5.8 万人が来場しています。
- ・市民や地元の NPO 等と河川管理者が連携しながら、市民参加による清掃活動等の維持管理や小学生を対象とした水生生物の観察会等の環境教育に取り組んでいます。



こいのぼりフェスティバル



えべつ花火



野菜直売所（防災ステーション）

水辺とまちづくりに関する基本方針

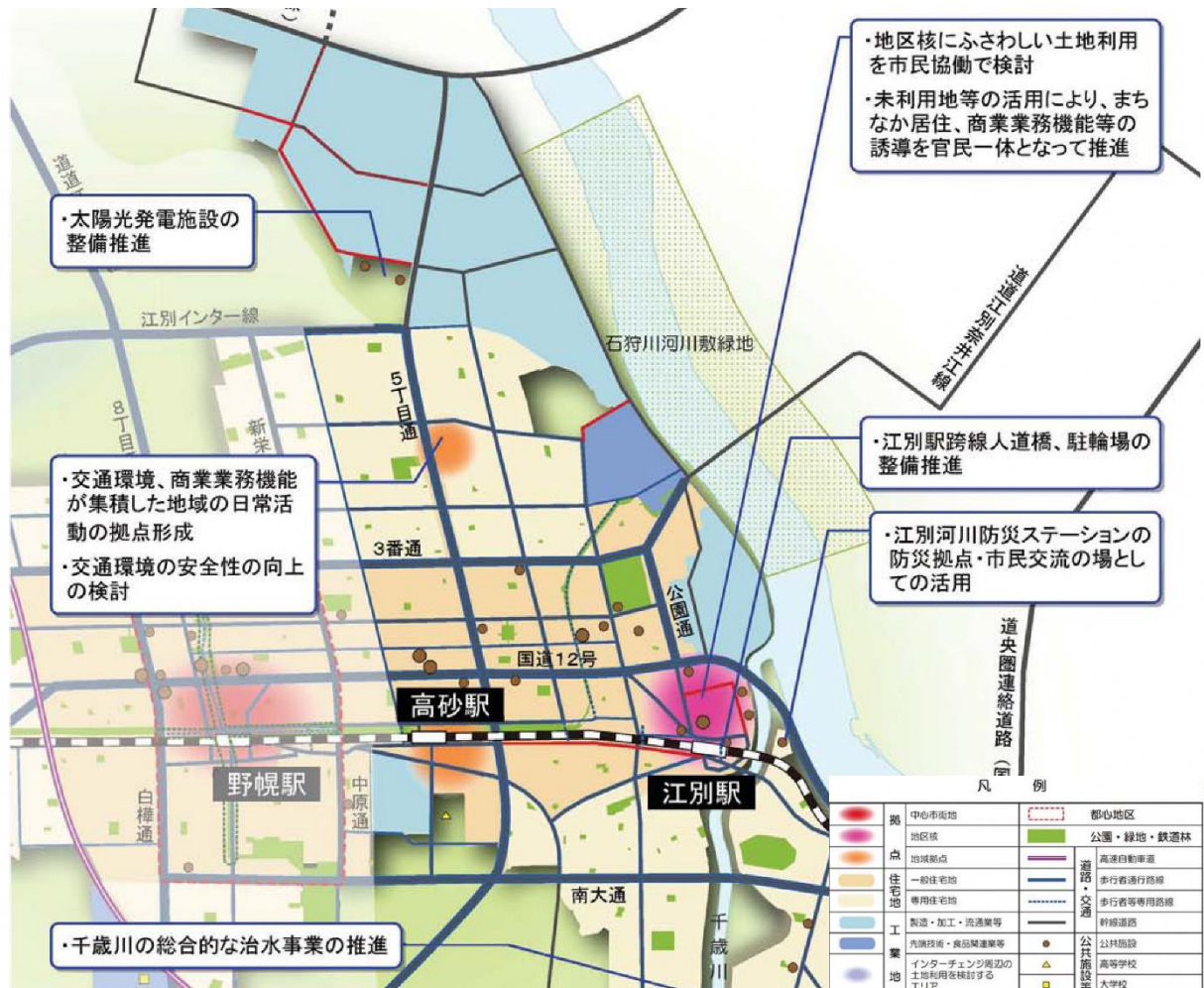
江別市では、「えべつ未来づくりビジョン（第6次江別市総合計画）」に基づき、地域資源を活かし江別観光の魅力をさらに高めるとともに、商店街の活性化等を推進し、観光による産業の振興に努めています。地域資源の発掘と活用、観光・イベント情報の発信を行い、江別市のイメージアップ、物産と観光が融合した江別ブランドの確立を図っているところです。

「江別市都市計画マスタープラン 2014」における江別地域のまちづくり構想に基づき、江別駅周辺の歴史性や境界性、良好な河川環境等の特性を活かした地域の魅力向上を目指して、地区核にふさわしい JR 江別駅周辺の再構築による周辺市街地との連鎖的な活性化、重要な地域資源である千歳川と共存した地域づくりを推進しています。

平成 30 年 3 月に「江別市観光振興計画」を策定し、各主体が役割を分担しつつ、観光資源を活かした魅力づくりと観光プロモーション、市民や事業者が実感する観光まちづくりを推進し、「食と農の豊かな実り、れんがと歴史にふれる街」を目指しています。

「江別市景観形成基本計画」（平成 18 年 3 月）では、市民が集う JR 江別駅前や商店街等の条丁目地区で、まちの顔として楽しく活気があり「魅力」ある景観として「江別らしさ」「心地よさ」「活気」のある景観や、千歳川と調和した緑豊かで潤いのある景観を目指した取り組みを行っています。

上記の事業と連携し、江別市かわまちづくり協議会とかかわまちづくり勉強会では、今回の「かわまちづくり」計画を水とまちをつなぐ人の流れや河川空間に賑わいを創出することを目標に位置付けました。具体的には、江別市条丁目地区・大川通地区と千歳川が一体となった水辺空間の活用、条丁目地区内の歴史的建造物の活用、周辺地域との連携、条丁目地区の歴史・文化の発信を推進し、江別港を中心に舟運で栄えた江別市条丁目地区の歴史性を活かした新たな「条丁目スタイル」の観光・まちづくりによる賑わいの創出により、条丁目地区・大川通地区を含む江別市の地域活性化に寄与することを目指します。



「江別市都市計画マスタープラン 2014」における条丁目地区・大川通地区周辺のまちづくり構想

【目標】
地域に愛され、観光客等の外部の人間にとっても魅力的な「かわまち」
(水辺とまちをつなぐ人の流れや河川空間の賑わいの創出)

<誰のために>

- ・条丁目地区の住民
- ・子育て世代
- ・条丁目地区を愛する人
- ・観光客

<どこで>

- ・水辺空間
- ・外輪船及び母屋
- ・条丁目地区
- ・周辺地域

<何をする>

- ・水辺の利活用
- ・歴史的建造物の活用
- ・周辺地域との連携
- ・歴史文化の発信

舟運で栄えた歴史性を活かした新たな“条丁目スタイル”の観光・まちづくり

目指す「かわ・まち」の姿

ソフト施策の個別施策計画書

1. 河川名
石狩川水系千歳川
2. 提案事業の実施範囲
千歳川 江別市条丁目地区・大川通地区
3. 提案事業の概要
千歳川 江別市条丁目地区・大川通地区
<p>【協議会・勉強会の発足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年11月、江別市、学識経験者、地元関係者等からなる「江別市かわまちづくり協議会」を設立し、江別市街築堤整備（石狩川・千歳川堤防整備）に伴い移設を要する外輪船（旧岡田倉庫）の利活用方法等について検討するとともに、外輪船（旧岡田倉庫）周辺の河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組について協議してきました。 ・令和3年1月以降、「江別市かわまちづくり協議会」のワーキンググループとして、「江別市かわまちづくり勉強会」を定期的開催し、条丁目地区・大川通地区の水辺整備や河川空間の利活用推進に向けた意見交換を行いました。 ・今後、民間事業者を加え、事業を遂行する実行組織の発足を支援します。 <p>【既存制度の活用と展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川敷地占用許可準則第22による「都市・地域再生等利用区域」の指定につなげることで、条丁目地区内の事業者・店舗等の河川区域での営利活動を可能とし、観光誘客を図ります。 ・江別市を占有主体として、「江別市かわまちづくり協議会」により利活用の方針を検討しつつ、民間事業者（実行組織）と連携して河川空間の活用を図ります。 <p>【ソフト施策】</p> <p>地域のニーズに沿ったソフト施策の実施による魅力向上と地域のブランドイメージ定着を図ることにより、地域に愛され観光客等の外部の人間にとって魅力的な「かわまち」を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 千歳川の水辺空間を活用した新たなイベントの企画（観光協会、NPO、民間事業者等） <ul style="list-style-type: none"> ・「ミズベのロングマーケット」等のイベントで実施されているコンサート・雑貨販売等に加えて、地域の歴史・文化や市民のニーズを踏まえ、周辺地域やJR江別駅等の拠点施設と連携して、水辺空間を含む広域的な観光誘客に資する新たなイベントの企画を検討していきます。 ①夏の灯籠流し・いかだ下り（地元大学との連携） ②水辺でのやきもの市、キッチンカーによる飲食販売、お茶会、ヨガ体験、演劇（水辺への拡張） ③「アートスペース外輪船」でのコスプレイヤーによる写真撮影会、海外アーティストの展示会（既存イベントの拡張） ④歴史的建造物と融合したプロジェクションマッピング ⑤石狩川・千歳川合流点の高水敷におけるキャンピング（アウトドア事業者との連携）
   
<p>灯籠流し 飲食販売 プロジェクションマッピング キャンピング</p>
<ol style="list-style-type: none"> 2) 冬のイベント・アクティビティプランの設定（観光協会・民間事業者） <ul style="list-style-type: none"> ・冬の水辺空間の利活用に関する地域の潜在的なニーズがあることから、多種多様な冬のアクティビティのプランを設定し、冬期の観光誘客を図ります。 ①河川管理用通路沿いのアイスキャンドル（既存のアイスキャンドル・イルミネーションイベントの水辺への拡張） ②堤防沿いの緩斜面を利用したそり滑り（地元幼稚園・保育園との連携、子育て家庭への周知） ③日常的に利用可能なファットバイク・クロスカントリースキーコースの設定



アイスクヤンドル



そり滑り



ファットバイク



クロスカントリースキー

3) 広域観光周遊モデルコースの設定（江別市）

・大川通地区に位置する江別河川防災ステーションには多くの市民や観光客が来場しており、連携した利活用の推進による相乗効果が期待できることから、様々な志向の人が好みに応じて気軽に利用できるよう、水辺—歴史的建造物（旧北陸銀行江別支店等）—拠点施設（JR 江別駅等）—周辺地域（四季のみち等の遊歩道）をつなぐ多種多様なコース・プランを設定します。

- ①「JR ヘルシーウォーキング」等の既存イベントと融合した観光プラン（観光協会等との連携）
- ②市民が日常的に利用可能な散歩・ジョギング・サイクリングコースの設定



歴史的建造物
（旧北陸銀行江別支店）



拠点施設
（JR 江別駅）



遊歩道（四季のみち）
（蔦屋書店付近）



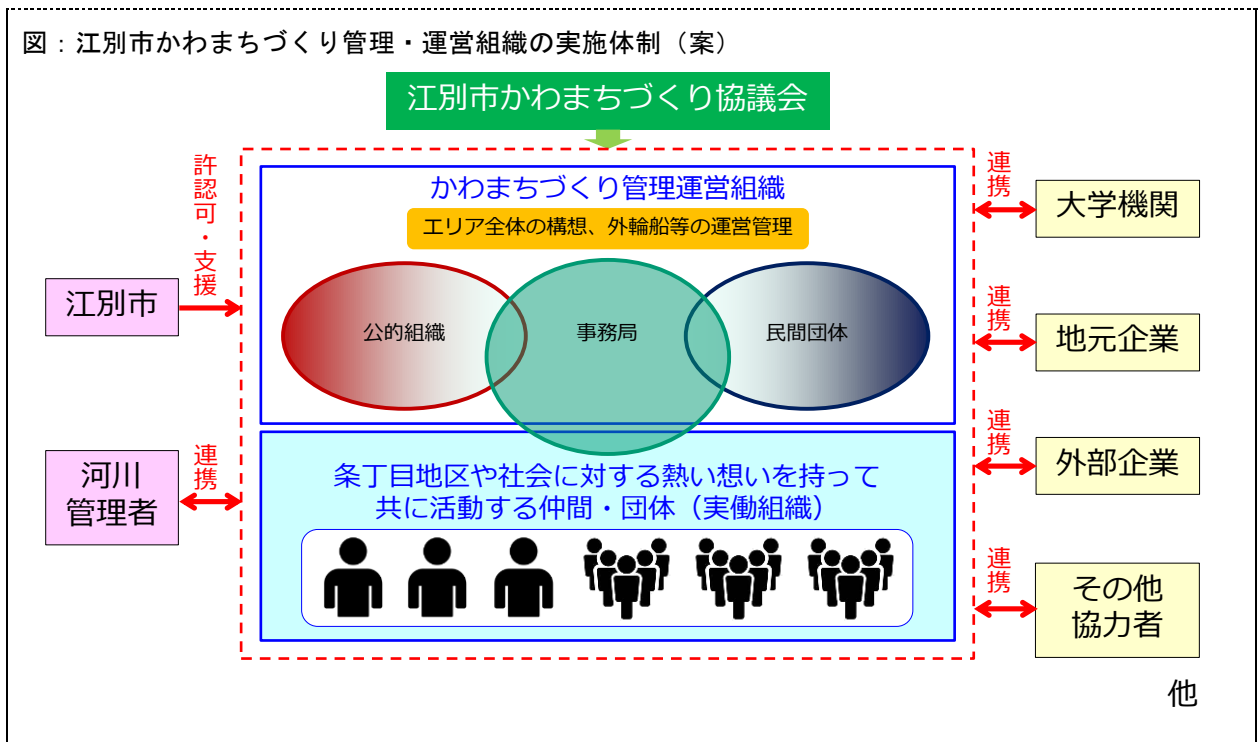
JR ヘルシーウォーキング[®]

（参考）

図：江別市条丁目地区・大川通地区周辺位置図



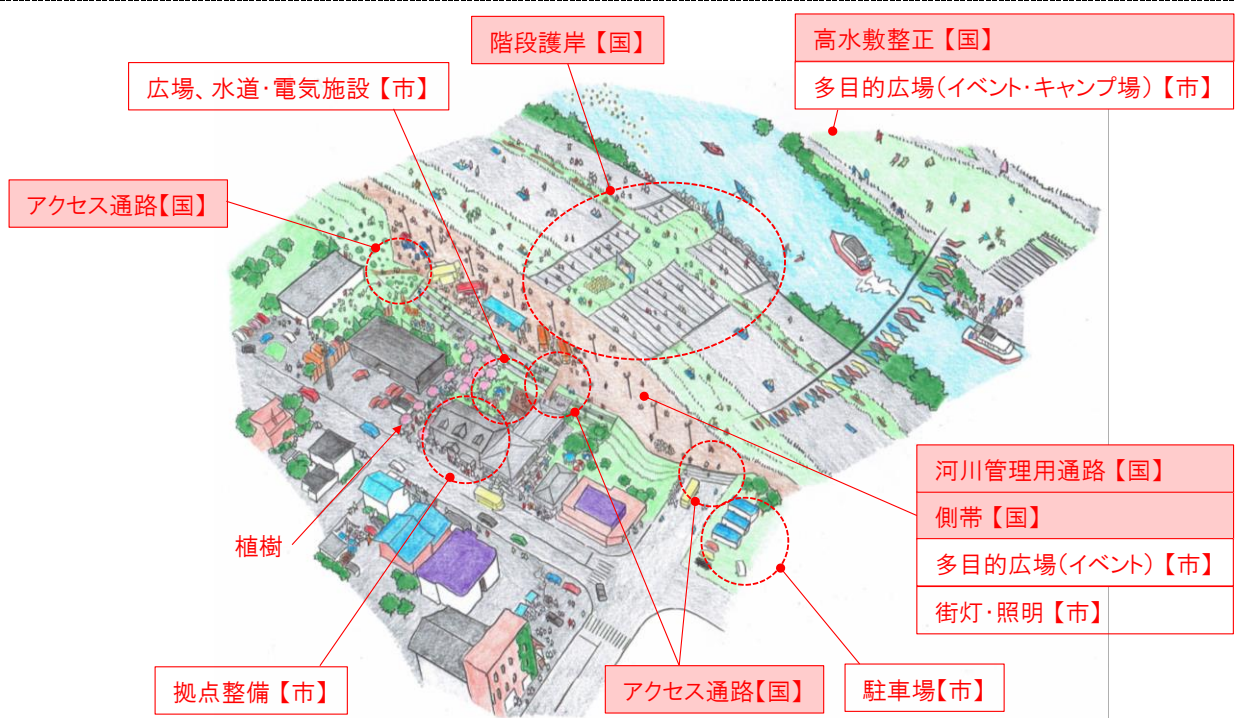
図：江別市かわまちづくり管理・運営組織の実施体制（案）



支援整備内容の概要（ハード施策）

1. 河川名
石狩川水系千歳川
2. 整備範囲
千歳川下流（江別市条丁目地区・大川通地区）
3. 整備内容
<p>外輪船（旧岡田倉庫）を条丁目地区・大川通地区における地域観光・まちづくりの拠点に位置づけ、地域の歴史・文化・観光等に関する情報を発信するとともに、市民に日常的に水辺を利用してもらい、水辺とまちをつなぐ人の流れや河川空間の賑わいを創出するため、江別市条丁目地区・大川通地区の水辺整備を実施します。</p> <p>【ハード施策】</p> <p>1) 千歳川の水辺整備（国：側帯、階段護岸、高水敷整正、河川管理用通路、アクセス通路） 外輪船（旧岡田倉庫）を河川空間の利活用拠点（「かわ」と「まち」の結節点）として、外輪船（旧岡田倉庫）と水辺をつなぎ「かわ」「まち」間の動線を創出するための水辺整備を実施する。</p> <p>2) 条丁目地区の施設整備（江別市：拠点整備、多目的広場、駐車場、街灯・照明、水道・電気施設） 水辺の観光ポテンシャル・利便性向上に向けて、子どもたちが安心して遊び、市民が憩い愛着を持って接することができる河川空間の創出のための整備を実施する。</p> <p>3) 周遊コース案内看板等の整備（江別市） 「まち」から「かわ」への観光動線を創出するため、水辺—旧北陸銀行江別支店等の歴史的建造物—JR 江別駅等の拠点施設をつなぎ観光周遊コースへ案内・誘導する看板・路面標示を整備する。</p>

（参考）整備予定箇所位置図



植樹のイメージ



階段護岸のイメージ



高水敷整正のイメージ



側帯のイメージ

4. 整備の必要性、有効性

石狩川と千歳川が合流する当該地区は、明治時代に始まった北海道の開拓において主要な交通手段だった小樽～幌内を結ぶ鉄道（明治 15 年開通）と上流へ向かう舟運の結節点であり、江別港と呼ばれていました。このため明治後半～大正にかけて繁栄し、共同の船着場や旧岡田倉庫を含む倉庫群が建設されました。昭和期においても官公庁、製紙工場、映画館や旅館等により賑わっていましたが、舟運の衰退や幹線道路の移設等により賑わいは落ち着き、現在では、歴史的建造物が数多く点在する地区となり、外輪船（旧岡田倉庫）は演劇・コンサート・講演会等の各種イベントに利用されています。

現在、千歳川では、昭和 56 年に発生した未曾有の洪水を安全に流下させることを目的に治水事業が進められています。当該地区の江別市街築堤は背後に市街地を有する重要な区間ですが、堤防整備に伴い外輪船（旧岡田倉庫）の移設が必要となり、移設後の利活用方法を早急に検討する必要が生じました。一方、江別市は、大都市札幌に近いという地理的要因等から通過型観光が多い状況でしたが、市内の観光資源を生かし道内や近隣市町村からの誘客が重要となっており、歴史性等の特色を生かした土地利用を目標としています。また市民からも、川のある暮らしを望む声が挙がっていました。

そこで今回の堤防整備に併せて、外輪船（旧岡田倉庫）の歴史的景観を活かしつつ水辺とまちを一体的に整備し、当該地区の認知度・知名度、イベントでの利用価値、観光ポテンシャルを向上させることで、交流人口の増加、歴史的経緯を踏まえた水辺の賑わいの創出、水辺を活用したイベントによる市内外からの広域的な観光誘客を図ります。周辺では近年住民の転入や保育施設の開設等も見られはじめており、日常においても周辺施設と一体となった水辺空間を創出しつつ、江別市の観光誘客に併せたまちなか居住を推進することで地域の魅力向上と活性化を図っていきます。

5. 整備の実現方策

【関連事業の整備計画】

- ・江別市では「江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、平成 27 年度から 5 ヶ年計画で観光振興による交流人口の増加と経済活性化を目指しています。具体的な事業として、大学及び学生等との連携事業、学生地域活動補助事業、グリーンツーリズム関連事業（直売所等）、北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区の取り組みを首都圏の企業に PR する広報事業等があります。
- ・令和元年 8 月に設立された「さっぽろ連携中枢都市圏観光協議会」は、札幌市及び近隣の 11 市町村（小樽市、岩見沢市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村、南幌町、長沼町）が連携し、観光客を増加させ、圏域全体の観光消費を増大させるため、観光振興に関する取組を企画・立案し、ツーリズム連携等の戦略的な共同プロモーション事業等を実施しています。
- ・上記の事業と連携することにより、賑わいのある水辺空間の利活用の推進を図ることができます。
- ・条丁目地区の利活用拠点となる外輪船（旧岡田倉庫）は、千歳川の築堤整備に伴い移設される予定であり、工事に合わせて利便性を確保できるよう、関係機関や河川管理者と調整を進めています。

【整備工程】

整備項目等	実施主体	R4	R5	R6	R7	R8	R9
かわまちづくり協議会・勉強会	江別市	← 運営組織・実施事業の具体化検討 →		← 運営組織・実施事業の支援・評価 →			
旧岡田倉庫（外輪船）移設	江別市	← →					
条丁目地区施設整備	江別市		← →				
周遊コース・市内看板等	江別市		← →				
水辺整備	江別河川事務所		← →				

6. 推進体制

令和 2 年 11 月に江別市、学識経験者、地元関係者の連携の下、江別市街築堤整備に伴い移設を要する外輪船（旧岡田倉庫）の利活用方法を検討し、外輪船（旧岡田倉庫）周辺の河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組について協議することを目的とした「江別市かわまちづくり協議会」を設立しました。

令和 3 年 1 月から、江別市と河川管理者による「江別市かわまちづくり勉強会」を開催し、より具体的な事業計画の策定と実践に向けた議論・検討等を推進しました。

現時点で、河川占用許可準則第 22 条（都市・再生等利用区域の指定）に基づく営利活動を行う民間事業者の参入が見込まれており、事業を遂行・運営する実行組織の発足を目指します。

7. 有効利用および維持管理

①有効利用に関する計画

- ・地域の観光ポテンシャルを有効活用したソフト施策の実施による魅力向上と地域のブランドイメージ定着を図ることにより、地域や観光客等の外部の人間にとって魅力的な「かわまち」を目指します。
- ・子どもたちが安心して遊び、市民が憩い愛着を持って接することができる河川空間を整備することにより、条丁目地区・大川通地区の地域づくりに寄与します。

②維持管理計画

- ・外輪船（旧岡田倉庫）及び水辺の整備施設の内、河川管理施設等の防災上必要とされる施設機能の維持管理については、河川管理者が行います。
（国：河川管理用道路、護岸等）
- ・非常時（洪水氾濫時及び事後）における河川空間等の管理については、河川管理者が行います。
- ・河川等の占用に伴う占用物に対する日常的な維持管理・清掃等に関しては、江別市、地元関係者、民間事業者等からなる実行組織）及び河川管理者が連携して実施します。
- ・維持管理費用については、官民で分担して永続的に維持管理が可能となるよう、適切なライフサイクルコストを検討していきます。

8. 特徴

当該地区は、石狩川・千歳川（当時は夕張川も）の合流点であり、さらに明治 15 年までに開通した鉄道および江別駅設置により、当時の主要な交通手段である舟運と鉄道の結節点となり、江別港と呼ばれていました。上流からは船で農産物（小豆、大豆、麦、雑穀）や木材を運び、当地区で鉄道へ積み替えて札幌や小樽や本州へ、下流からは生活物資（米、味噌、砂糖、酒、衣服、薬品、石材、鉄）を鉄道で運び、当地区で船に積み替えて石狩川や千歳川（夕張川）の上流へ運んでいました。

これにより、明治 30 年代後半から大正にかけて、雑穀（麦、豆、そば、種、肥料）を扱う商人が増え、共同の船着場や外輪船（旧岡田倉庫）が建設されたほか、明治 35 年には江別駅～千歳川の船着場まで線路が建設されるなど、繁栄しました。

昭和に入ってから、官公庁、王子製紙及びその社宅、3つの映画館や多くの宿、料理店、百貨店、飲食店などが存在し、賑わいを見せていました。しかしながら、地区を通っていた幹線道路の移設や、札幌に近い地区の開発等により、現在は歴史的建造物が建つ比較的落ち着いた地域になっています。

「江別市かわまちづくり」の整備により、既存の歴史的建造物の利活用施設としての機能を充実させ、観光・歴史・文化・まちづくりに関する効果的な情報発信を行うことにより、条丁目地区・大川通地区の認知度・知名度向上、歴史的建造物を中心に「かわ」と「まち」が一体となった賑わいの創出を図ります。



北海道演劇祭



外輪船アート展



えべつ秋の特産味覚まつり



「まちあかり江別」イルミネーション

その他特筆すべき事項

1. 江別市かわまちづくり協議会

令和2年11月以降、「江別市かわまちづくり協議会」を計6回開催しており、江別市街築堤整備（石狩川・千歳川堤防整備）に伴い移設を要する外輪船（旧岡田倉庫）の利活用方法や「かわまちづくり」計画等に関する協議結果を議事要旨としてとりまとめ、ホームページで公開しています。

「江別市かわまちづくり協議会」開催状況

No.	開催日時	概要
第1回	日時：令和2年11月4日（水） 14:00～16:00 場所：江別市民会館 小ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会の目的と進め方について ・旧岡田倉庫の利活用及び移設先について ・旧岡田倉庫利活用ワーキンググループの設置・開催日について
第2回	日時：令和2年12月21日（月） 14:00～16:00 場所：江別市民会館 小ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・旧岡田倉庫利活用ワーキンググループ開催報告 ・旧岡田倉庫の施設、活動概要等 ・かわまちづくりの進め方について
第3回	日時：令和3年9月28日（月） ※書面開催	<ul style="list-style-type: none"> ・前回協議会での議事内容について ・旧岡田倉庫の移設に係る状況報告 ・かわまちづくりロードマップ（案） ・かわまちづくり勉強会の位置づけ
第4回	日時：令和3年10月25日（月） 14:00～16:00 場所：江別市民会館3F 37号室	<ul style="list-style-type: none"> ・前回協議会の振り返り ・かわまちづくり勉強会開催報告 ・かわまちづくりの進め方について ・かわまちづくり計画について
第5回	日時：令和4年1月24日（月） 10:00～12:00 場所：江別市民会館 小ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・前回協議会の振り返り ・かわまちづくり勉強会開催報告 ・かわまちづくり計画書の概要 ・かわまちづくり計画書（素案）について
第6回	日時：令和4年3月29日（火） 10:00～12:00 場所：江別市民会館3F 37号室	<ul style="list-style-type: none"> ・前回協議会の振り返り ・かわまちづくり勉強会開催報告 ・パブリックコメント結果報告 ・かわまちづくり計画書について

2. 江別市かわまちづくり勉強会

令和3年1月以降、「江別市かわまちづくり協議会」のワーキンググループとして「江別市かわまちづくり勉強会」を計8回開催しており、開催結果をニュースレターとして整理し市民に周知しています。また、地元から幅広い意見を収集するため、幼稚園・保育園、地元企業・大学を対象とした個別ヒアリングや地元住民との現地視察を実施し、「江別市かわまちづくり勉強会」での議論・検討に反映させています。

「江別市かわまちづくり勉強会」開催状況

No.	開催日時	概要
第1回	日時：令和3年1月19日（火） 18:00～20:00 場所：江別市コミュニティセンター1F 多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・かわまちづくり協議会と勉強会について ・江別市街築堤の整備について ・かわまちづくり支援制度について ・意見交換
第2回	日時：令和3年3月23日（火） 18:00～20:00 場所：江別市コミュニティセンター1F 多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・前回勉強会の振り返り ・かわまちづくり先行事例の紹介 ・意見交換をしながらのドローイング ・今後の勉強会の進め方について
第3回	日時：令和3年9月28日（火） 18:00～21:00 場所：ZoomによるWeb開催	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会の位置づけ、今後の進め方 ・前回勉強会・個別ヒアリングの振り返り ・意見交換をしながらのドローイング ・ハード整備の実施区分について
第4回	日時：令和3年10月18日（月） 18:00～21:00 場所：江別市コミュニティセンター1F 多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の進め方について ・前回勉強会の振り返り ・ハード整備・ソフト施策内容（案） ・かわまちづくりに関するグループワーク
第5回	日時：令和3年11月16日（火） 18:00～20:00 場所：江別市コミュニティセンター1F 多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・支援制度への申請までの流れ・ ・旧岡田邸母屋の調査状況 ・千歳川流域の治水・利用・環境の取り組み ・ハード整備内容（案）の概要 ・都市・地域再生等利用区域の指定 ・かわまちづくりに関するグループワーク
第6回	日時：令和3年12月21日（火） 18:00～20:00 場所：江別市コミュニティセンター1F 多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会・支援制度への申請までの流れ ・前回勉強会の議事内容等 ・千歳川の堤防について ・かわまちづくり計画について ・かわまちづくりに関するグループワーク
第7回	日時：令和4年1月26日（水） 18:00～20:00 場所：ZoomによるWeb開催	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会・支援制度への申請までの流れ ・前回勉強会の議事内容等 ・かわまちづくり計画について ・かわまちづくり計画書（素案）について
第8回	日時：令和4年3月17日（木） 18:00～20:00 場所：ZoomによるWeb開催	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会・支援制度への申請までの流れ ・前回勉強会の議事内容等 ・パブリックコメント調査結果 ・イベント活動報告 ・かわまちづくりに関する意見交換

<江別市かわまちづくり協議会ホームページ>



[はじめての方へ](#)
[背景色を変える](#)
白
黒
青
[文字の大きさ](#)
拡大
標準

[検索](#)

[Foreign language](#)
[サイトマップ](#)
[携帯サイト](#)
地図でさがす
カレンダーでさがす
課名でさがす

[トップページ](#) > [組織・課名でさがす](#) > [商工労働課](#) > 江別市かわまちづくり協議会

江別市かわまちづくり協議会

[印刷用ページを表示する](#) 掲載日：2021年9月28日更新

江別市かわまちづくり協議会は、江別市街築堤整備（石狩川・千歳川堤防整備）に伴い移設を要する旧岡田倉庫の利活用方法等について検討するとともに、旧岡田倉庫周辺の河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組について協議することを目的としています。

要綱・委員

- ・ [江別市かわまちづくり協議会設置要綱 \[PDFファイル/62KB\]](#)
- ・ [江別市かわまちづくり協議会委員名簿（任期：令和2年11月4日～令和4年3月31日） \[PDFファイル/27KB\]](#)

江別市かわまちづくり協議会会議録（要旨）

令和2年度	第1回（令和2年11月4日） [PDFファイル/153KB]	資料1 [PDFファイル/46KB] 資料2 [PDFファイル/212KB] 資料3 [PDFファイル/9.73MB] （参考資料） ・ 江別市街築堤整備（石狩川・千歳川堤防整備）について [PDFファイル/2.49MB] ・ 旧岡田倉庫位置図について（用地ライン入り） [PDFファイル/274KB] ・ 地元自治会等からの要望書 [PDFファイル/2.9MB]
	第2回（令和2年12月21日） [PDFファイル/140KB]	資料1 [PDFファイル/214KB] 資料2 [PDFファイル/4.83MB] ※一部省略 資料3 [PDFファイル/394KB] 資料4 [PDFファイル/78KB]
令和3年度	第1回（令和3年9月28日：書面開催） [PDFファイル/217KB]	議事内容 [PDFファイル/135KB] 資料1 [PDFファイル/188KB]

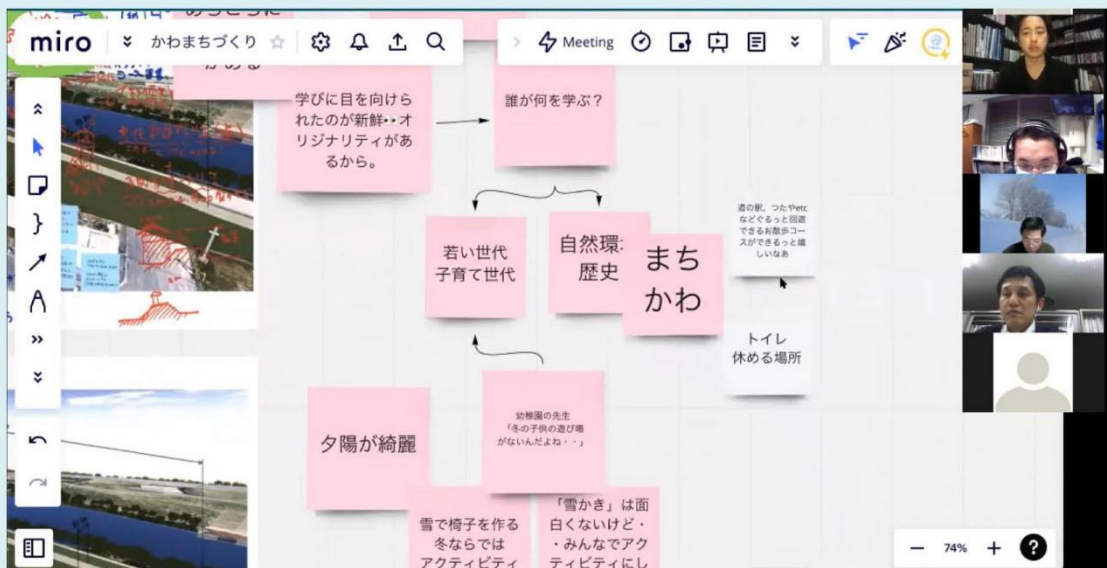
江別市かわまちづくり勉強会 NEWS LETTER

Vol.07 2022.2.7

第7回勉強会 報告：1/26（水）開催

旧岡田倉庫の利活用と条丁目地区のかわまちづくりに関する協議を行うために設立された「江別市かわまちづくり協議会」のワーキンググループとして Web 勉強会を開催しました。Web 勉強会では、江別市から前回勉強会の振り返り等を行い、その後参加者が4グループに別れて、「これまでの勉強会で話せてよかったこと」「これまでの勉強会でまだ話せていないこと」「今後の勉強会はどのようなやり方がよいか？」というテーマで「グループワーク」を行いました。

新型コロナ禍の非常に厳しい状況にあります。色々な方々と議論を重ねながら、条丁目地区を元気にしていきたいと思えます。



●グループワークの概要

「これまでの勉強会で話せてよかったこと」「これまでの勉強会でまだ話せていないこと」「今後の勉強会はどのようなやり方がよいか？」をテーマに活発な意見交換が行われ、「どのアイデアが実現可能で誰がやるのかを詰める必要がある」「今後も意見交換の場が必要である」「議論するテーマの細分化が望ましい」「質の高い勉強会とするための進め方を学ぶ必要がある」等の意見が出ました。

江別市かわまちづくり勉強会って何？

千歳川と江別市条丁目地区の歴史や文化、人々のつながりを活かしながら、条丁目地区をより明るく元気するための「かわまちづくり」に関する勉強や意見交換をしています。
条丁目地区の未来を一緒に考えましょう！

次回勉強会は
令和4年3月
開催予定
です！

【事務局】江別市役所商工労働課内
(電話) 011-381-1023 (Eメール) shoko2@city.ebetsu.lg.jp

